

さくらほっと NEWS

vol.56 令和4年夏号

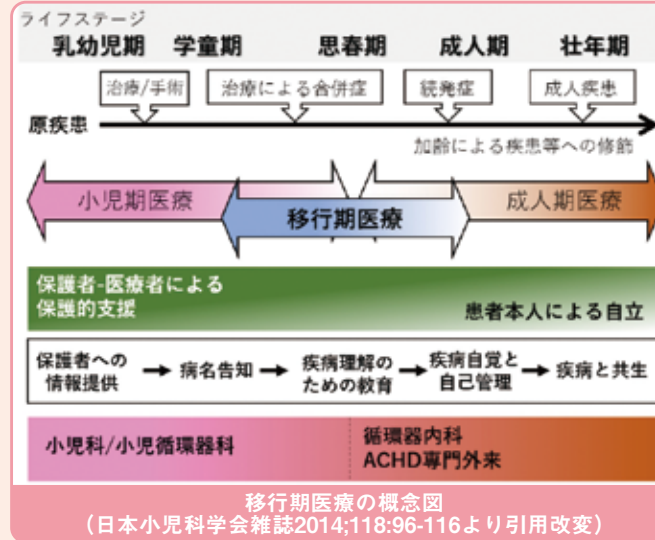
循環器内科が目指す「移行期医療」の実践！成人先天性心疾患外来 開設

生まれつきの心臓病である先天性心疾患は、胎児期から小児期に見つかることが多く、小児科で診療されています。近年の診断モダリティと手術など治療の進歩により、多くの方が成人を迎えられています。このような成人先天性心疾患（Adult Congenital Heart Disease, ACHD）患者さんは今後増加すると考えられます。

先天性心疾患症例の約3分の1は、複雑な心血管奇形を背景とした中等度以上の重症度を有しています。このような方々が幼少期に受ける修復手術は根治手術ではないため、加齢に伴い、心不全や肺高血圧の悪化、不整脈の出現、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の合併、精神疾患の合併ならびに社会とのつながりの困難さなどの問題が出現してきます。当院においても、過去に複雑奇形を伴う先天性心疾患に対し手術が施された患者さんの多くが成人となり外来通院されております。



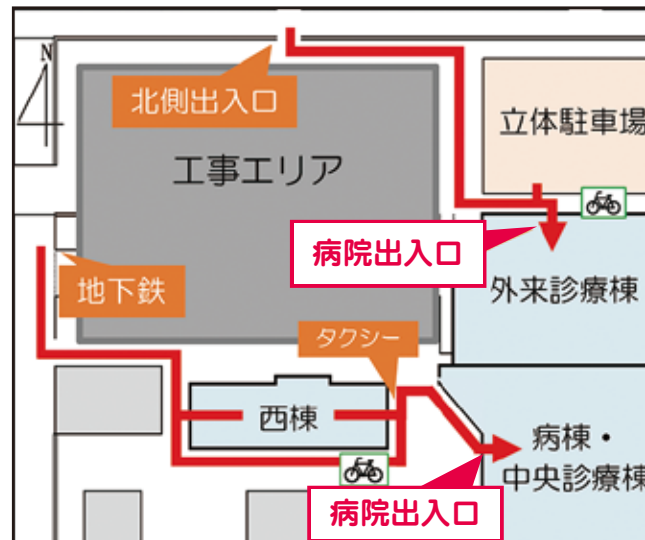
循環器内科
瀬尾 由広 部長



当院循環器内科では、令和4年4月より成人先天性心疾患外来を開設しました。「こども」から「大人」へ自立していく患者さんが適切な医療を生涯にわたって受けられるように小児科、小児心臓外科と協力し、移行期医療（図）を実践し地域貢献を目指すべく頑張っていきたいと考えております。

先天性心疾患には、心房/心室中隔欠損症、総肺静脈還流異常症、ファロー四徴症、完全/修正大血管転位などがごございます。これら疾患の術後成人の方で相談症例がございましたら、水曜日成人先天性心疾患外来（担当 瀬尾由広）、もしくは循環器内科初診外来へご紹介下さい。皆様からのご連絡をお待ち申し上げます。

来院するみなさまへお願い



病院出入口変更のお知らせ

当院では令和7年度竣工予定の救急・災害医療センター（仮称）に伴う工事を行っています。工事期間中は敷地内の動線が大きく変更するため、皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、図のように迂回をお願いいたします。ご理解、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

来院時のお願い

- 来院の際は、マスクの着用にご協力ください。
- 赤外線サーモグラフィーによる検温、入退館時の手指消毒もしくは流水による手洗いをお願いします。
- 3日以内に発熱のある患者さんや濃厚接触者の方は、病院出入口のインターホンから職員にその旨をお伝えください。

面会禁止のお知らせ

- 厚生労働省の指針に沿い、当面の間、面会を禁止させていただきます。
 - 以下の場合に限り、ご家族に限り1名までの入館を許可しています。入館される場合には、病棟・中央診療棟1階防災センターにて毎回入館受付を行ってください。また、病棟にご用の際は入口のインターホンでお知らせください。
- | | |
|-------------------|--|
| 付添いが必要と医師が判断した場合 | 必要物品の受け渡しをする場合（入館は15分程度に限る・病棟内へ入ることは出来ません） |
| 医師や職員から来院依頼があった場合 | |
| 入退院時の付添いをする場合 | |



ROSA Kneeと整形外科スタッフ

手術支援ロボット
「ROSA Knee」導入1年、
手術待ち7ヶ月！ …2

名市大病院のチカラ Vol.24 ……3

循環器内科が目指す「移行期医療」の実践！
成人先天性心疾患外来 開設…4

来院するみなさまへお願い
病院出入口変更のお知らせ

地域の医療機関と名古屋市立大学病院との連携



手術支援ロボット「ROSA Knee」導入1年、手術待ち7ヶ月！

令和3年5月より名古屋市立大学病院に米国ジンマー・バイオメット社の整形外科用手術支援ロボット「ROSA Kneeシステム」が導入されました(全国で5施設目(名古屋市の病院では1施設目)の導入)。ROSA Kneeは既に世界中で200台以上が導入されており、人工膝関節手術の良好な成績が報告されています。ROSA Kneeの使用により、これまで術者の経験にゆだねられていた骨切りを、ナビゲーション機能を備えたロボットが補助する事により、インプラントの設置が0.5°、0.5mm単位で調整可能となりました。その精度の高い骨切り、インプラントの設置により、低侵襲で合併症リスクの少ない手術が可能となり、患者さんの早期の回復、早期社会復帰が可能となりました。

更に、ROSA Kneeではコンピュータ上で手術前に患者さん一人一人にその方の理想の人工膝関節をプランニングし、その術前計画を手術中に忠実に再現する事が可能であります。患者さん一人一人に合った人工膝関節手術を行う事により、術後の痛みの改善、違和感の少ない膝を実現する事が可能となり、患者さんの生活の質(QOL)の改善が可能となっています。

昨年より当科では毎月10名を超える患者さんの人工膝関節手術を進めておりますが、当科で手術を受けられたご友人の口コミを耳にされた患者さんなど、非常に多くの患者さんにお越し頂き、令和4年6月現在、手術待ちが7ヶ月を超える状況であります。膝の痛みでご不自由な方々に半年を超える期間手術をお待ち頂く事は、大変心苦しい状況であります。当科で治療を受けて頂いた患者さんには“待ってでも名市大で膝の治療をして良かった！”と言って頂けるよう、これからも精進して参ります。関係各署の皆様には今後とも、お力添え賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

(文責 整形外科 野崎正浩)



ROSA Knee



手術の様子



手術後3ヶ月の患者さんと外来にて
(左:患者さん、右:担当医師 野崎)

名市大病院のチカラ Vol.24

内分泌・糖尿病内科

先端的医療技術：人工膵臓による精密な血糖管理の実践



人工膵臓に関わる内分泌・糖尿病内科医師、臨床研修医と臨床工学技士

私達の体の中では種々の作用を持つ物質(ホルモンと言います)がうまく調和して全身の臓器に作用し、栄養素の体内での流れを調節して人間の生命を維持し生体の恒常性(正常な機能を維持する仕組み)を保っています。我々内分泌・糖尿病内科医はホルモンや栄養素の流れを通じて患者さんを診る専門家です。

膵臓は膵液を分泌することで食べ物の消化を

助ける役割(外分泌機能)と、インスリンやグルカゴンなどのホルモンを分泌することで血糖値を一定に保つ役割(内分泌機能)をもつ臓器です。

手術のように外から大きなダメージを受けた場合には、膵臓がもつ血糖値を一定に保つ仕組みを超えて血糖値が急激に上昇します。この場合、手術後の回復が遅れやすく感染症などの合併症を引き起こしやすくなります。

今回、当院が運用を開始した人工膵臓STG-55は、膵臓の内分泌機能を人工的に再現した医療機器であり、手術中・手術後にわたり、インスリンやブドウ糖を全自動で持続的に精密注入することによって、常に適正な血糖値に保つ働きをします。特に膵臓や肝臓の手術において人工膵臓を使用すると手術後の合併症が抑えられることが知られています。現在愛知県内では8台が稼働しており、当院ではそのうちの1台を令和3年1月より患者さんの治療や検査に役立てています。

輸血・細胞療法部および血液・腫瘍内科

CAR-T細胞療法(キムリア®)の提供可能施設として認定されました。

この度、当院は白血病やリンパ腫の新たな治療薬である再生医療等製品「CAR-T細胞療法(キムリア®)」の提供可能施設として令和4年5月6日に施設認定されました。本治療は、輸血・細胞療法部で製品の管理を行い、血液・腫瘍内科および小児科の患者さんを対象に行われます。

CAR-T細胞療法とは

がんに対する免疫・細胞療法は、化学療法、外科療法、放射線療法に続くがん治療の第4の柱として位置づけられています。CAR-T療法は、患者さんからリンパ球(T細胞)を採取した後に、工場でキメラ抗原受容体(Chimeric Antigen Receptor: CAR)という人工的な分子を導入することでがん細胞を攻撃するようにT細胞を改変します。それを患者さんに戻してがんを攻撃する免疫・細胞療法です。悪性リンパ腫や急性白血病の「CD19」というたんぱく質を標的としたCAR-T細胞を患者さんのリンパ球から作成し、戻すのがキムリア®です。

施設認定

キムリア®製品による治療には、①患者さんから細胞採取②院内で調整・凍結した細胞原料の

外部製造所へ搬送③製造された製品の受領と管理④製品投与後の合併症の管理の一連の過程で、高い品質管理と安全性確保が必要となります。そのため監査を受け、提供可能と認定された施設のみで本治療が可能です。当院では、ダブルチェック体制をもとに十分な品質管理・安全管理を整えた医療体制で臨みます。

医療機関の先生方へ

キムリア®治療をご希望の患者さんをご紹介いただく際は、治療対象の要件をご確認のうえ、当院の地域医療連携センターよりご予約をお取りいただきますようお願いいたします。今後、キムリア®以外のCAR-T細胞療法も順次ひろげていきます。



院内での細胞調整と凍結作業